

第 51 回沖縄県高等学校野球 1 年生大会

地区予選：令和 8 年 10 月 13 日（火）～11 月 3 日（火）

中央大会：令和 8 年 11 月 7 日（土）～11 月 15 日（日）

主 催：一般財団法人

会 場：（地区予選）

各 地 区 一 任

沖縄県高等学校野球連盟

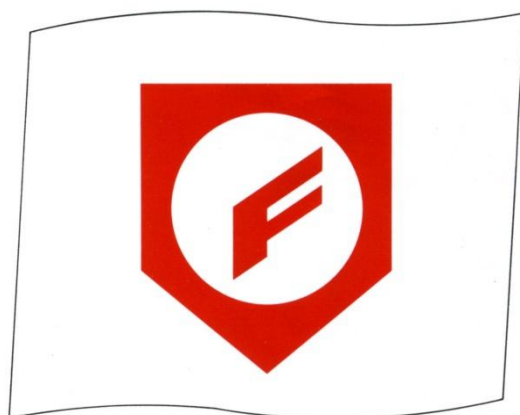
：（中央大会）

エナジックスタジアム名護

主 管：沖縄県高等学校野球連盟技術部

具 志 川 球 場

大 会 要 項



2026 年 10 月 20 日

一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第51回沖縄県高等学校野球1年生大会開催要項

1. 目 的 1年生部員が実戦経験を積む中で、仲間と共にプレーする喜びと帰属意識ならびに技術力を高め、チーム作りの円滑化とその底辺拡大をねらいとする。
2. 期 間 地区大会・・・令和8年10月13日（火）～11月3日（火）
中央大会・・・令和8年11月7日（土）～11月15日（日）
3. 主 催 沖縄県高等学校野球連盟
4. 主 管 沖縄県高等学校野球連盟技術部
5. 会 場 地区大会・・・各地区評議員で協議し決定
中央大会・・・エナジックスタジアム名護、具志川球場
6. 参加資格 （1）令和8年度、沖縄県高等学校野球連盟に登録された1年生であること。
（2）再入学の場合は、前学校において高野連主催の大会に出場した生徒は除く。
7. 参加人員 当該1年生登録部員であれば全員参加できるものとする。但し、ベンチ入りを20名までとし、試合ごとに入れ替えることができる。
8. 服 装 地区大会においてはセカンドユニフォームでも可能とする。中央大会においては正式のユニフォームを着用し、背番号をつけること。
9. 参加申込 各地区評議員は予選大会終了後2チーム（但し、宮古・八重山は各1チーム）を選出し、高野連技術部部長（球陽高校・川上）に報告する。中央大会出場校は、野球競技者登録システム「野球ねっと」で大会申し込み申請を行い、システムから出力される選手資格証明書に学校長および学校医印を押印後、PDFデータ（カラー）として1部を沖縄県高野連事務局のメールアドレスまで、電子メールにて添付送信すること。

※処理期限（大会申し込み申請およびPDFのメール送信締切）は令和8年11月4日（水）抽選会まで
10. 抽 選 地区大会は各地区一任。
中央大会抽選会は11月4日（水）午後2時 北中城村中央公民館 2F 研修室
11. 表 彰 地区大会は行わない。中央大会の優勝校には、賞状、優勝旗、優勝盾を授与し、準優勝校には、賞状、準優勝盾を授与する。
※優勝校を令和9年度に実施される第54回沖縄県高等学校野球新人中央大会に推薦校として出場させる。（優勝校が選手権大会で優勝して推薦校になった場合は、準優勝校を推薦校とする）
12. 試 合 球 地区大会は各地区で準備する。中央大会は本連盟が準備する。

13. そ の 他
- ①試合方法について、予選大会は各地区で決定し、中央大会はトーナメントとする。
 - ②1週間500球以内の投球とする。
 - ③コールドゲームについては、予選大会においては各地区で規定する。中央大会において、点差によるコールドは5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合とする。
 - ④決勝戦は、コールドゲームを適用しない。
 - ⑤降雨中断後、30分毎に判断しグラウンド整備を行い、90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
 - ⑥最終試合の開始時刻は日没2時間30分前とする。日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
 - ※ 継続試合については決勝戦でも適用する。
 - ただし、照明設備があり、照度確保できると判断した場合は、その限りではない。
 - ⑦延長10回よりタイブレーク制度を適用する。(無死1, 2塁、継続打順)
 - ⑧シートノックは後攻より5分間とする。
 - ⑨試合中の負傷については各地区予選、中央大会とも当該部長で責任をもって行う。
 - ⑩審判委員は原則として正式審判員とするが、各地区予選については、当該理事が審判責任者と連絡し又はOB、2、3年生の部員で審判し、中央大会はすべて正式審判委員とする。
 - ⑪運営補助費については、各地区責任者は事務局(石川高校:名渡山)より授受し運営費にあてる。
 - ⑫中央大会選出チームは予選の参加チームに関係なく2チーム選出し宮古、八重山は各1校(今年は宮古地区代表が離島1位)、九州大会参加チームは推薦とする。九州大会参加校が辞退した場合は理事会で協議して決定する。
 - ⑬中央大会の運営補助員は当該校の2年生部員が当たる。当該校の部長はお互いに調整し役割分担を確定すること。第1試合の準備は、第1試合の当該校で準備することとする。また、運営補助は試合開始から次の試合の開始準備までを担当する。
 - ⑭地区をまたがる連合チームの扱いについては、人数の多い学校の地区大会に参加する。同数の場合は、地区で話し合って参加地区を決定する。決定方法は地区に委ねる。地区の移動により、地区間の学校数のバランスが崩れても、連合チーム以外の移動は認めない。
 - ⑮女子部員を参加させる場合は、地区で確認し、オブザーバーの試合に限る。ただし、危険を伴うので学校長と相談の上、出場範囲等を定める。公式大会には出場できない。(地区大会を含む・日本高野連回答)

第 51 回沖縄県高等学校野球 1 年生中央大会細則

1. 試合規則は、2026 年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、当該 1 年生登録部員であれば全員参加できるものとする。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第 1 試合の出場チームは、試合開始 90 分前には所定の球場に到着し、オーダー用紙を記入後、直ちに提出すること。
その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。(オーダー用紙交換は試合開始 50 分前に行なう。) ※オーダー用紙には、当日ベンチ入りする責任教師・副責任教師を記入してください。
※オーダー用紙は、HP よりダウンロードしてください。
5. 第 2 試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4 回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は 5 回終了後に行なう(放送を行なう)。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備をしておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師 1 名、副責任教師 1 名、監督 1 名、選手 20 名、記録員 1 名の計 24 名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、ユニフォームのままでもベンチ入り可とする。
8. 試合前のシートノックは 5 分間または行わない事も選択できる。ノック時の補助選手は 5 名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒または白のスパイクおよびシューズとする。
補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ず SG マーク(経産省認可)両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット(SG マーク付)とスロートガード(のど部分の防護具)、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは 1 個のみとする(監督のみ使用)。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。ただし、第 1 試合目のチームに関しては、ランニングまでは、チーム統一のシャツを認める。キャッチボールからは、ユニフォームとする。
人員は 25 名以内とする。※2 試合目以降のスパイク着用 時期に関しては、球場で異なるので注意してください。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは 2 組(4 人)まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
20. 5 回終了後のグラウンド整備に関しては、5 分間程度とする。(熱中症対策含む)
21. タイブレークの場合は、10 回終了後グラウンド整備に入り、5 分間程度とする(熱中症対策含む)
22. 野球規則 5.11 (a) 及び (b) 指名打者(DH 制度)について採用する。
《応援団について》
 1. 応援は高校野球にふさわしいものであること。品位と節度をもったものでなければならない。
 2. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 3. 手指消毒など、基本的な感染拡大防止に努めること。
 4. プラスバンド以外の太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを 1 個とする。
 5. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃に協力する。
 6. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等、タオル等を振り回しての応援は禁止。
 7. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。5分間または行わない事も選択できる。但し天候事情で、行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー(登録外)1名を認める。
2. 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは10回、無死1塁・2塁からとし、打順は9回終了時の打順を引き継ぐものとする。(決勝戦もタイブレークを適用する)
3. 1週間500球以内の投球とする。
4. 本大会では、得点差によるコールドゲームを次のとおり定める。
① 5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
② 決勝戦では、コールドゲームを適用しない。
5. 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめどに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。
6. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とする。
7. 日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が当該試合の当日の試合の打ち切りを命じ、継続試合とする。継続試合の日程や球場については、主催者が決定する。※継続試合については決勝戦でも適用する。ただし、照明設備があり、照度確保できると判断した場合は、その限りではない。
8. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
 - (1) 打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - (2) 塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
9. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
10. 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
11. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
12. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
13. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
14. 試合中ベンチ内での携帯電話、タブレット、パソコン、スマートウォッチなど通信機能のある電子機器の使用を禁止する。スマートウォッチに関してははずしてもらう。
15. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
16. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。